

とも呼ばれるようになった。独創性の高さが災いして、国内外で成果が認められない時代もあった。東北大学の助手時代には、当時の米国の学説にとらわれずに執筆した論文が、日本の学界から痛烈に批判を受けた。

心配したのか、直属の教授が論文を預かない」「間違っただけなら、早くなければならぬ」と、共同通信記者 浅見 英一

なる外岡富士雄さん、人材を輩出した。門下生だった早坂昭夫さん(78)は「大みそかでも夜遅くまで研究室で教えてもらい、新年の1月2日には先生のお宅で気さくに話をしてくれました。厳しくて温かかった若き日の恩師を振り返った。

「重度訪問介護」活用を

鳴門の難病患者 会見し訴え

鳴門市大津町木津野の会社員真田かよ子容疑者(74)が、介護疲れなどを理由に難病のパーカーキーパー、一キンソン病患者の次男修志さん(49)を殺害したとされる事件を受

池田町マチ2が出席。2人も重度訪問介護制度の利用者で、24時間体制でサービスを受けられる制度の特長などを紹介した。

その上で、患者やその家族だけでなく、自治体、福祉関係者の制度への理解が不足している」と指摘。内田さんは「どんな障害があっても地域で生活できる」と知ってほしい」と訴えた。



筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の武川修士さん(68)＝三好市

3月に1人暮らしを始めた。「自立生活センター」とくしまを設立し、同じような境遇の障害者を支援している。武川さんは14年12



会見する内田さん(左端)と武川さん(中央)＝県庁

地検、母親を起訴
徳島地検は26日、鳴門市大津町木津野の会社員真田かよ子容疑者を殺人の罪で起訴した。起訴状などによると、真田被告は7日午前0時すぎ、自宅1階の居室のベッドで寝ていた次男修志さんの首を、殺意をもってロープで絞めて殺害したとしている。

いずれも意識ははっきりしており軽症。スプレーをまいた男は40〜50代とみられ、店から逃走。客と店員がトラブルになったといい、新宿署が傷害容疑で調べている。現場は新宿駅西口の北側の飲食店などが並ぶ通り。現場には規制線が張られ、警察官や消防隊

かかったら、目がちくちくした」と驚いた様子。近くの飲食店従業員(41)は「人通りが多くにぎやかな場所だが、こんなことは初めてだ」と話した。

内ヶ島さんは、遺体で発見される前日の24日夜は帰宅しなかったことも捜査関係者への取材で分かった。25日朝の発見時、死後数時間が経過していたことから、捜査本部は、会社遅くまで残っていた帰宅する際の24日深夜から25日未明に襲われたとみている。

社会医療法人
心療内科・精神科
あいざと山
院長
吉野川市山川町前川
★ご相談ダイヤル
あいざと山
こころの医療
福祉相談
センター
ご相談
ダイヤル

SEKISUI HOUSE 税務セミナー

開催時間 13:30~16:30 ([受付] 13:00~ [開演] 13:30~)

会場 ザ グランドパレス 4階 メイプルルーム

10/28(日) 定員 30名

第1部 13:30~15:00 『相続の事前対策とは、今から学ぶ基礎知識』

完全予約制 参加無料

